

5.環境保全活動の経緯

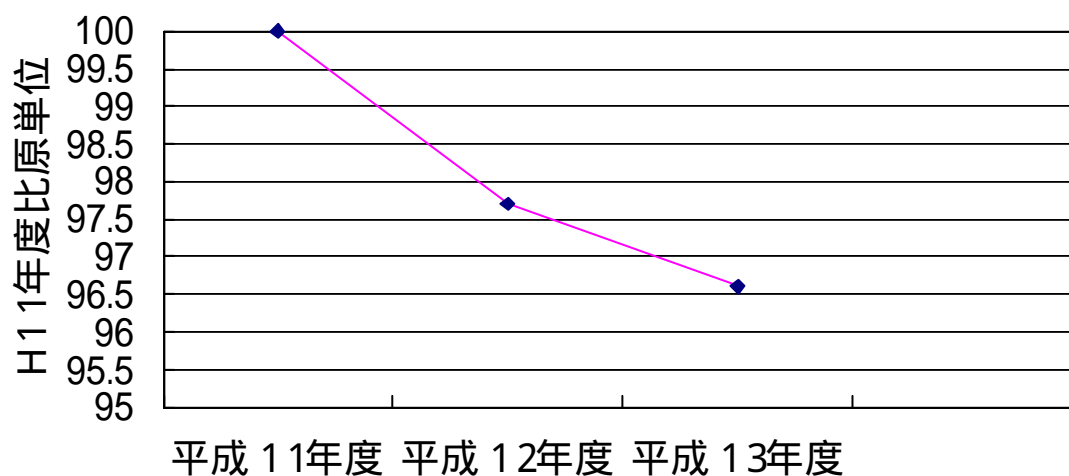
5)- 1温暖化ガスの排出削減

弊社においては、2001年4月に省エネ推進会議を発足して以後、対前年度比年間原単位1%以上の電力削減を目指して活動を継続しております。

各年度別原単位推移

	対前年度比原単位		
	平成11年度	平成12年度	平成13年度
原単位推移	100	97.7	98.9

平成11年度比原単位推移



5) - 2 産業廃棄物の削減

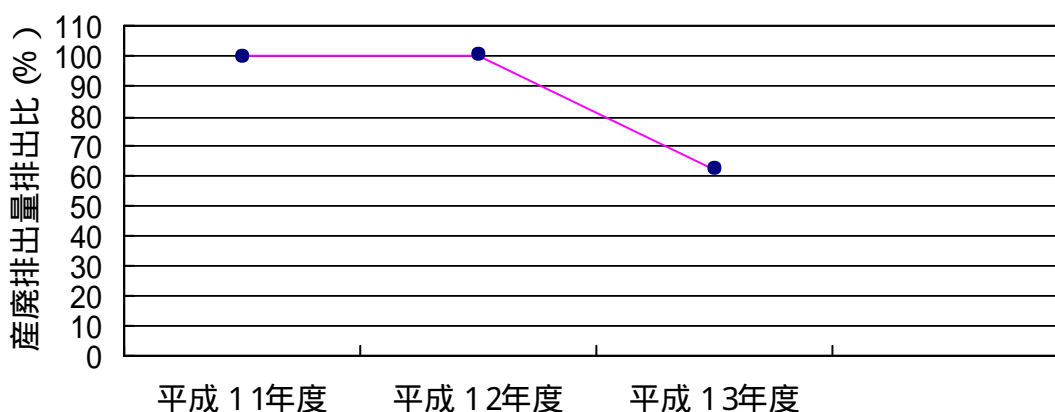
弊社においては黒鉛の精錬・粉碎工程からの汚泥・分散体製造時の洗浄排水・フレコンバック等の廃プラスチックが廃棄物の主なものであり、数値目標を立て2001年4月に資源リサイクル推進会議を発足して発生の抑制とリサイクルを推進しております。

年度別廃棄物量推移

平成11年度を100とする

	平成11年度	平成12年度	平成13年度
産廃排出量	100	100.6	62.3

産廃排出量推移



5) - 3 化学物質の管理と使用量の削減

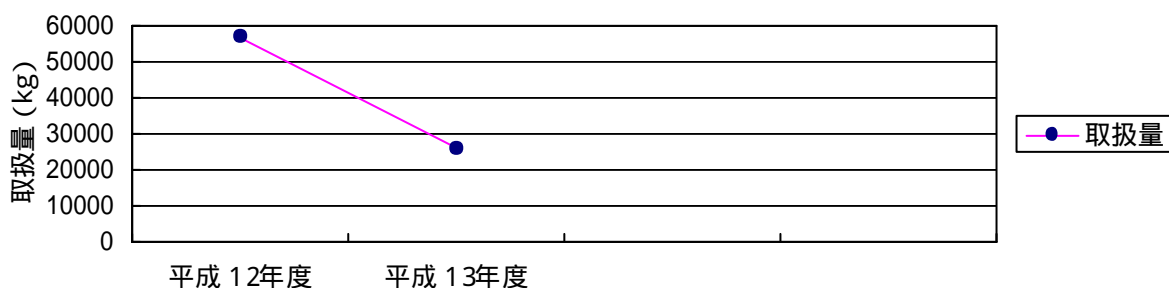
PRTR法の施行により指定化学物質の量管理と置換・削減を押し進めるため2001年4月に化学物質総合管理会議を発足し、その管理と置換・削減を推進しました。

PRTR法第一種指定化学物質の使用量推移

単位は kg

	平成12年度取扱量	平成13年度取扱量	
アクリル酸	1000	1152	
ビスフェノールA	600	200	
キシレン	6290	1020	
1,4ジオキサン	4020	0	
テレフタル酸	8770	4775	
トルエン	11269	4153	
ニッケル	1510	2006	
硼素及びその化合物	1005	861	
オクチル=フェニルエーテル	7854	867	
ノニル=フェニルエーテル	8680	3193	
Mo及びその化合物	6030	11659	
合計取扱量	57028	29886	

指定化学物質取扱量



5) - 4 環境汚染防止の推進

黒鉛の精錬・粉碎と塗料への二次加工を行い、製品化しているために精錬排水や分散設備よりの振動等、生活環境汚染をもたらす可能性が有り、公害・環境整備会議を長年に渡り開催し対応してきました。近年は公害問題も皆無に等しくその結果周辺住民にご迷惑をお掛けする事も無くなりました。

最近の工場周辺環境

(1) 排水排出状況

	SS	COD	BOD	トータルN	トータルP	P H
実測値	18mg/L	14mg/L	13mg/L	1.07ppm	0.09ppm	6.82
規制値	70mg/L	30mg/L	30mg/L	12.0ppm	1.20ppm	6~8.5

(2) 工場周辺騒音・振動測定結果

	工場北側 (昼間)	工場北側 (夜間)	工場南側 (昼間)	工場南側 (夜間)
騒音規制値	65	55	65	55
騒音 (dB・A)	49	48	54	54
振動規制値	60	55	60	55
振動 (dB)	40~45		39~41	